

6月の植物

トキソウ (ラン科)

Pogonia japonica Rchb.f.

湿原にはラン科植物が多く生育するが、なぜか動物の名前を付したものが多い。唐津市七山の檜原湿原には、サギソウ、トキソウ、ミズトンボ、マイヅルソウなどが知られている。鷺、朱鷺、蜻蛉、鶴である。いずれもその形や色を由来としている。

6月の湿原を彩るのはトキソウである。日本の朱鷺は絶滅してしまったが、中国から譲り受けた個体の繁殖に成功し、佐渡から放鳥されたものが全国各地に生息している。朱鷺の羽は繁殖期になると婚姻色のピンク色に変化し、これを朱鷺色と言うが、トキソウは花の色が似ているためその名前が付いたとされている。檜原湿原には白花のトキソウもあり、そのままシロバナトキソウ (*P. japonica* Rchb.f. f. *pallescens* Tatew.) という。トキソウの近縁種にヤマトキソウ (*P. minor* (Makino) Makino) がある。トキソウが湿原に生えるのに対しヤマトキソウは草原性である。トキソウに比べると花が小さく閉じた状態で色も薄くて地味である。

ランの仲間は、ほとんどの種類で個体数が減少し、絶滅危惧種に指定されているものが多い。トキソウは、北海道から九州まで分布は広いが、ほとんどの県で絶滅危惧種に指定され、佐賀県のレッドデータブックでは最もランクが高い絶滅危惧 I 類種に指定されている。減少の原因は、盗掘、湿原の開発、環境の変化（遷移の進行）などである。ランの仲間は園芸的な価値が高く、マニアも多いため、たくさんの種類で盗掘が最大の危機的要因となっている。檜原湿原は、県の自然環境保全地域に指定されていて保全の手立てがとられているが、今でも盗掘被害は続いていると言われる。今ある自然がいつまでも保全され、将来の子どもたちもこの自然を満喫できることを願って止まない。

(上赤博文)

